

1966年に事業を始めた東芝エレベータ(株)は、2016年に50周年を迎えました。利用者の更なる安全・安心を目指すとともに、これからも昇降機の先進企業として価値を創造し、社会に貢献していきます。

近年は、エレベーターによる大量輸送や昇降の高速化だけでなく、待ち時間の短縮や、乗り心地の改善、グローバル対応や車いす対応を含めたユニバーサルデザインの導入などに力を入れています。アジアを中心とした海外市場向けに普及型商品を開発している他、国内向けの機種でも多言語表示やピクトグラムを取り入れるなど、より多くのユーザーが快適に利用できるよう配慮しています。

国内市場向けに2012年に発売した東芝マシンルームレスエレベーター“SPACEL-GR”及び“ORDER SPACEL-GR”の後継機として、安全性、安心感、及び快適性の機能を大幅に拡充した“SPACEL-GR II”と“ORDER SPACEL-GR II”を、2016年1月に商品化しました。かごと乗り場のしきい間のすきまをふさいだ業界初となる“しきい間すきまレス”をはじめ、安全性、安心感、及び快適性を改善する機能を搭載した他、住宅用に新しいデザインのラインアップも拡充しました。

また、インド市場で最大手のジョンソンリフツ社と協業して、インドのミドルセグメント向け戦略機種として普及型エレベーター“ELCOSMO-TJ”を、2016年7月に商品化しました。インド特有の仕様や法規への対応を実施するとともに、一部の乗り場ドアや意匠関連部品などを現地で製造し、ローカルフィットを図っています。

常務 統括技師長 藤田 善昭

安全性、安心感、及び快適性を向上させた 国内市場向け マシンルームレスエレベーター SPACEL-GR II

SPACEL-GR IIは、業界初^(注)の“しきい間すきまレス”を実現して落とし物の心配を少なくした他、かご内や乗り場付近のようすを見渡すことができる“広角ミラー付き操作盤”と、画像解析技術で利用者の行動を予測し挟まれ事故を防止する“スマートドア”を装備し、安全性を向上させた。また、背面ミラーの中から映像が浮かび上がる“ミラーサイネージ”を搭載し、意匠性を向上させた。更に、利用者の多様性に配慮し、運行状況を多言語で表示する他、ピクトグラムによる案内や音声アナウンスを行う“ユニバーサルガイド”を搭載した。

(注) 2016年1月時点、当社調べ。



SPACEL-GR II
SPACEL-GR II machine-room-less elevator

インド市場向け 普及型エレベーター ELCOSMO-TJ

ELCOSMO-TJは、中国市場を中心に展開しているグローバル市場向け普及型エレベーター ELCOSMO-Eをベースに、インド市場向けに改良した戦略機種である。

現地の法規に対応するため、昇降路寸法に合わせたかごサイズの選択とそれに伴う各種用品の見直しを行うとともに、耐火ドアの現地製造を実現した。併せて、ドアが開かないとき、自動運転で他の階に走行して開く“他階回避運転”機能を搭載した。また、品質基準の見直しを行うことで安全性と省エネ性を維持しつつコスト競争力を高め、ボリュームゾーンのマーケットシェア拡大を目指した。



ELCOSMO-TJ
ELCOSMO-TJ standard elevator for Indian market